

独裁的知事の下でも先駆的施策を推進 —行政とは改革であり、戦いだ！—

元東京都環境局長 有留 武司

1 私の経歴

- ・ 東京都庁 臨海副都心開発担当課長、城北福祉センター所長、障害福祉部長、環境局長などを歴任。
- ・ 退職後、 H25年夏まで（株）ゆりかもめ代表取締役社長など

2 東京都の先駆性の伝統と誇り

- ・ 東京都から発信し、全国自治体、国を先導！
美濃部、鈴木、青島、石原、（猪瀬）知事など、一貫した東京都庁の伝統
（東京都の先駆的施策の例）
- ・ 福祉 認証保育所制度（0歳、13時間延長、駅前）
ホームレス自立支援策 障害者等の在宅介護サービス 福祉水準全体の大幅な底上げ（美濃部都政）
- ・ 環境 公害行政 ディーゼル車規制 地球温暖化対策（大規模事業所CO2排出総量規制）
- ・ 行財政改革 大胆な施策のスクラップ&ビルド、大幅な定数削減（15% 11000人の純減）人件費H11年度1兆9千億円
H25年度1兆5千億円 △4千億円
⇒身を削る厳しい内部努力で新規施策の原資を確保
- ・ 人事制度 成果・能力主義による人事任用制度の推進
- ・ 都市インフラの整備 環状2号線（道路の上に虎の門ヒルズ）、羽田空港の国際化など

3 私の「戦い」の実践例

① 城北福祉センター所長（H10～12年）

（ホームレス自立支援事業の創設！）

—Tax イーターを再びペイヤーへ—

- ・ H11年当時都23区内ホームレス5800人、上野、山谷等に集中。
- ・ 城北福祉センターの食糧支給の応急援護に毎日1000人が殺到。
ふるさとの会などボランティア・NPO団体も連日の炊き出し
- ・ 一宿一飯の応急援護では自立には結びつかず、行政・NPOとも疲弊。
- ・ 生活保護は65歳超の高齢者、病弱者しか受給困難。1/4の区負担が財政圧迫。都は独自に住所不定者の区負担を一定期間肩代わり。
- ・ 「ふるさとの会」などが、山谷でグループホームの運営開始。
- ・ 「所長室開放」 ふるさとの会、訪問看護、アルコール・薬物依存克服等のNPOリーダーを集め議論を重ねる。

- ・「ホームレス白書作成」…岩田正美日本女大教授Gに大規模実態調査依頼。
 - ホームレスの平均年齢55歳、8割が就労意欲と能力。
- ・いざ、都と23区の共同事業として自立支援システムの政策作りへ！
 - 緊急保護センター；健康回復⇒自立支援センター；職と住居を確保
- ・しかし抵抗勢力との戦いは厳しい。
 - ・前任の守旧派福祉局長はダメ出し。後任局長（4月から練馬区長）は極めて優れたリーダーで全面支援
 - ⇒3枚の企画レポートを局長に提出、3日後にOK「企画から事業実施までお前がやれ。本庁も全面支援する！」
 - ・財政当局（財務局）は大反対・・・「怠け者」に税金使うのか？一度始めた福祉施策はやめられない、後年度負担への不安。
 - ・23区温度差、3～400人の台東、荒川区と10数人の目黒区等
 - ⇒100回訪問で各区説得、最初の緊急保護施設を大田区長が決断。
- ・最後の壁が石原知事！
 - ・これまでの6月超の努力が知事の判断で決まる。わずか3分の説明に知事は、「俺はホームレスには詳しい、芥川賞候補もいる。面白い、やってみろ！」で決まり。
- ・H12年3月 都区共同事業開始。条例不要、予算も流用で対応。
 - ⇒わずか6か月の超スピードで政策形成、関係機関調整、事業実施へ！
- ・NPO財政基盤確立への支援 福祉センター別館の管理、自立支援センターの管理委託等。
 - ふるさとの会は生活保護等行政施策の資金を上手く活用。良質なNPO人材不足。走りながら養成。
- ・劇的とも言える成果。H25年8月、ホームレス1057人に激減。
 - *その後の地域生活移行支援事業、生活保護の積極適用の効果もあり。
- ・自立支援事業利用実績（H12～25年）
 - 利用者累計16242人⇒就労自立者7675人（約50%）
- ・国会議員からの依頼で議員立法による「ホームレス自立支援法原案作成
 - ⇒国の法成立は、都の事業開始から2年半後のH14年8月
- ・NYのホームレス支援団体との交流。山谷、釜ヶ崎（愛隣）のNPO学者、行政職員。「Housing First」の先駆的实践に学び施策に反映。
 - 「コモン・グランド・コミュニティ」代表 ロザンヌ・ハガティ
 - ⇒ホームレス低家賃住宅、就労支援、精神障害者支援、NPO弁護士活動、銀行等大企業のコミュニティ支援事業等を視察、ヒアリング。

② 障害福祉部長（H14～16年）

- ・都立福祉事業団委託障害者施設を全国で初めて民立民営化（民間移譲）。
 - 「コストを下げてサービスを上げる」というパラドックスを実現。
- ・知的障害者生活寮（都独自のGH）の大幅増設、施設入所者の地域生活移行実績に応じた社会福祉法人補助の充実など地域生活支援の推進。

（杉並区の閑静な住宅地に知的障害者支援施設を作る！）

- ・「すだちの里すぎなみ」（社福）東京都育成会の建設計画への反対運動。
- ・杉並区今川。戸建てや低中層の住宅街で、用途地域は住居専用地域。

- ・ H 1 2 年頃～周辺住民の反対運動。医師、商社等会社員、区役所職員などいわゆる「インテリ」、ミドル・富裕層が中心。
- ・ 当初は社福法人、杉並区職員が対応するも、合意不能で区役所福祉部（当時山田宏区長）から Help 要請。
- ・ 都は障害福祉部長以下関係課長係長＋区役所部課長で反対運動鎮圧作戦。
⇒ここで施設建設不可なら、山中か「都外」しか立地出来ない！総力戦へ！
- ・ 毎週土曜、日曜に 2 0 回以上の説明会、数百回の個別訪問等の必至の努力で合意形成。
- ・ 成功の原因
 - ・ 「絶対に退かない」という決意。地域と共生している施設をビジュアルに示すなど多様な説得。精神論、あるべき論だけでは困難。障害者施設周辺で犯罪例は極めて稀など、定量的統計示す。行政の情報量は多い。
 - ・ 都と地域密着の区・社会福祉法人の連合軍は強力。
- ・ 最後の説明会
住民代表から「どうせ作るなら是非立派な良い施設にして欲しい、頑張る」と励ましを得て握手。

③ 環境局長（H 2 0 年～2 2 年）

- ・ 日本で初めて大規模事業所に対する温室効果ガス（CO₂）排出総量規制（キャップ&トレード制度）を創設。罰則あり実効性高い。オフィスビルも対象は世界で初めて。
- ・ 大野輝之都市地球環境部長が主役（後任の環境局長→現ソフトバンクエネルギー財団事務局長）
- ・ 当初、経団連加盟大企業はこぞって猛反対。秘密組織？「東京都対策委員会」結成。業界団体天下りの一部の国官僚が加担。知事、議会等へ強力な働きかけ。専門雑誌等で反対キャンペーン。
⇒経済成長への妨げ、排出量取引が「投機の対象となる」など。
- ・ ステークホルダー会議での公開論争。批判に対して、ヨーロッパに調査団を派遣して理論を実証的に裏付け。プレス、議会等を味方に付ける。
- ・ 知事は極めて積極的 * デイゼル車規制では関係団体を自ら説得
⇒「構わないから、早く進めてくれ！」
* 「自治体のエネルギー戦略」（大野輝之著 岩波新書）参照

④ （公財）東京都道路整備公社理事長（H 2 2 年～2 4 年）

- ・ 解散（倒産）寸前の公社を抜本的な荒療治で経営再建
- ・ H 2 1 年度 2. 6 億円の基金（貯金）取り崩し 残額 1 8 億円
- ・ H 2 4 年度 取り崩し 0 円へ

⑤ （株）ゆりかもめ代表取締役社長（H 2 4 年～2 5 年）

（ゆりかもめから、臨海部のまちづくりを発信！）

◎超高齢社会に向け、徹底的なバリアフリー化

○全16駅の全洋式トイレに温水洗浄便座を導入(日本=世界初)

- ・障害者、お年寄り、妊産婦など誰でも快適に
- ・多目的トイレは使用中が多く真に必要な人が使いにくい。
- ・鉄道駅で一番汚れやすい所を改善してお・も・て・な・し。

○全16駅の全ホームドアへのステップ設置

- ・ホームドアと車両間の段差と隙間を極力解消し、より安全で円滑な乗り降りが可能に。
- ・車イス利用者には、従来駅員が渡し板を使って乗降補助したが今は周囲の人の協力を得て、簡単かつ安全に乗降。
- ・視覚障害者には従来どおり、駅員が乗降駅間改札まで同行誘導。

○コンシェルジュ機能の充実

- ・お年寄り、外国人にはタブレット等で視覚的に案内
- ・全駅員に英会話研修実施 クイックレスポンス

◎まちづくりの振興=お台場ブランディング戦略.....提案したが一部保留へ

○景観重視(窓をさらに拡大)の車両に設計変更を提案

→東京湾の魅力的景観を資源として生かす

* 本年から導入の新型車両は窓面積を85%に縮小

○イベント列車の運行 ワイン、生ビール飲み放題、合コン等

○進出企業等と連携した賑わいイベント

駅コンサート、シーサイドイベント(鵜飼、薪能等)で賑わい創出

4戦い済んでも、日は暮れず

・東京都の先駆的施策はボトムアップが中心

⇒Gによるトップダウン施策は多くが失敗

・社会保障・福祉は本当に難しい

経済、税財政、政治、経営、社会、行政学など多岐にわたる総合行政

・「出会い」と「学び」.....是非とも「異業種」「異分野」との交流を！

・改革派行政マンはまだ眠らず 若い世代への継承・育成、首長等への提言

⇒① NPOフォーラム自治研究(FJK)シンクタンク 研究員

* 自治体OB、NIRA(総合研究開発機構)OB、学者等で構成。

理事長 嶋津隆文松陰大教授、特別顧問 下河辺淳

現職4市長(和光、町田、加賀、田原市)が顧問。

②起業準備 利益を上げ、シンクタンク機能へ

* ご質問、ご意見は、ゆきさんか下記へ

Email : 9j9m3i@bma.biglobe.ne.jp

フェイスブック [takeshi.aritome@facebook.com](https://www.facebook.com/takeshi.aritome)